

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2590600017
法人名	有限会社 オアフ
事業所名	グループホーム オアフ
訪問調査日	平成 20 年 2 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 25 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590600017
法人名	有限会社 オアフ
事業所名	グループホーム オアフ
所在地	滋賀県草津市草津2丁目5-24 (電話) 077-516-0678

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成 20年 2月 4日	評価確定日	平成 20年 2月 25日

【情報提供票より】 (平成19年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	2 人
常勤換算	14.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19年 12月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くろづ外科・栗東ピースクリニック・草津総合病院・湖南歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム オアフは古くからある草津商店街の近くにあり、木造2階建ての2ユニットに18名が暮らしている。平成18年に設立されたため設備は新しい。利用者には要介護3以上の方が6割強を占め、希望によりターミナルケアまで行っている。昨年11月、全員に見守られながら安らかに息を引き取った事例もあり、利用者や職員は家族同士という強い絆で結ばれている。要介護度の高い方が多いため、工夫せねばならない点もあるが、利用者や家族の満足度は非常に高い。これはいつまでもその人らしく、輝きを持って暮らせるよう、手厚く介助されているためである。また事業所は4箇所の協力医療機関と強固な連携を取り、週一回の往診や緊急時に深夜の往診も受けられ、利用者が最後まで安心して暮らすことが出来るという信頼感で結ばれている点がこの事業所の特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との交流については改善されているとは言えないが、利用者の権利義務を契約書で明確にする、職員も入居者と同じ食事をする、地域に運営理念の啓発をする、馴染みの食器を使う、買物をする、緊急時の対応訓練をする、評価を介護計画に生かす事については改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は高い目的意識を持ち、全職員も自己評価の意義・目的・重要性を認識している。今回の自己評価はミーティングの中で十分意見交換し、ユニットリーダーが取りまとめ、管理者が作成した。次回は全職員が自己評価の作成に取り組む事を期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>包括支援センター代表、市介護課代表、町会長、民生委員、事業所からは代表者、管理者、職員が出席、2ヶ月毎に開かれている。会議は事業所の行事予定や結果報告、自己評価、外部評価の結果等を討議、実現したい提案が多く出ている。今後は利用者、家族の出席を求め運営改善の具体的な取り組みを期待する。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>オアフ通信「傾聴」と近況報告を担当者から毎月送付している。事業所の窓口を決め家族が来訪の折、時間をかけて色々な話をする中で対応し日々のケアに反映させている。苦情相談窓口として公的機関(市役所・県庁・国民健康保険連合会)の窓口も重要事項説明書に明記されている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、幼稚園の行事にお誘いを受けても、車椅子の利用者が多いため気軽に参加出来ていない。家族やボランティアなどの支援を得て、参加出来る機会が増えるよう期待したい。玄関の施錠をしない工夫を重ね、地域の人が気軽に立ち寄れる場所作りへの取り組みを望みたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

				取り組みを期待したい項目
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭での自由な暮らしを大きな家族の中で」の理念に沿って日々のケアは実践されている。介護保険制度改正による地域密着型サービスとしての役割を見直した理念にはなっていない。	○ 事業所が地域に出来る事を考慮し、「地域との関係強化」「地域住民との交流強化」を謳った独自の理念を作りあげ、判り易く文章化して日々唱和、実践していくよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に管理者と全職員で理念を唱和し日々の取り組みの中で確認している。	
2. 地域との支えあい				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市内の中学4校から30名以上を福祉・職場体験学習として受け入れている。自治会に入り夜回りに職員が参加しているが利用者に商店街・自治会・地元の幼稚園の行事の招待を受けても車椅子を必要とする要介護度の高い利用者が多く参加できていない。	○ 介護度の高い利用者が地域と交流を図るのは難しい面も有るが、家族やボランティアの支援を積極的に受け入れ地域との交流を進めるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年改善点として上がっていた8項目の内、7項目は改善されており、評価の意義は十分理解されている。今回はミーティングで全職員と話し合い管理者が作成した。	次回の自己評価票は全職員が作成し、これを集約して欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター代表、市介護課代表、町会長、民生委員、事業所の代表者、管理者、職員のメンバーで2ヶ月毎に開催し事業所の現状報告、行事予定と結果報告、自己評価、外部評価の公表について討議している。実行に移したい提案は多く出ているが具体的な成果には至っていない。	今後は利用者と家族の参加を求め具体的な改善取り組みに結びつく話し合いを期待したい。

				取り組みを期待したい項目	
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月オアプの広報紙「傾聴」を市、包括支援センターに届けている。		市、包括支援センターが持っているボランティア情報を提供してもらい車椅子介助見守りなどの支援者の確保を検討して欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報としてオアプ通信「傾聴」を送付すると同時に担当職員から文書で利用者の状況を報告している。広報の内容は行事の結果や予定、利用者の近況を写真入で判りやすく紹介され好評である。健康状況については随時管理者または主治医から報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見を聞き運営に反映しているため家族の満足度が高い。面会の少ない家族には用件を作り訪問を促すなどの努力をしている。苦情相談窓口は事業所と市、県、健康保険連合会の窓口を「重要事項説明書」で明文化している。		訪問回数の少ない家族を含め全ての家族の意見を収集し運営に反映するため、今後も工夫と努力を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動は事前に利用者や家族に説明していないが、入居者のダメージを防ぐため引継ぎの期間を30日取り、利用者の負担を軽くする努力をしている。管理者は仕事上の付き合い以外にも職員と話し合う機会を多く作り希望や悩みを聞いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のレベルに応じた研修を年間計画として取り入れている。受講後は内容を報告し職員間で共有する場を持っている。働きながらのトレーニングは日常の介護の中で行われている。		若い職員が多く向上心も強いので高い目標を持ち優秀な介護職員となるように個人別の育成計画を立て支援育成して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までは外部研修の際交流する程度で、同業者と交流するための機会は無く、事業者相互間の交流は行われていない。淡海グループホーム協議会に加入することにより他事業所と交流する機会を得た。この協議会は講師を招き研修やスキルアップに繋がる討議を行い事業所としての資質向上と交流を目的としている。	○	今までは実施されていなかったが2月29日に「みちくさ」と交流を実施する予定、「真野陽風荘」も計画している。介護の質を向上するための交流であることを期待する。

				取り組みを期待したい項目	
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入居予定者と家族に事業所へ見学に来てもらい、利用者や職員の紹介をし、雰囲気に慣れて頂くよう心掛けている。団欒の時間帯に来て頂き、皆と顔なじみになれるよう配慮している。入居予定者の状態を十分家族と話し合い、心身の状況を把握した上でサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日リクリエーションとして歌や嚙下体操、折り紙などをして、共に過ごしている。利用者と職員は日常の会話や団欒の時間を増やすことにより、互いに支え合う関係を築いていけると考えている。格言や諺など判らない場合は教わっている。花壇で育てた花や野菜を見て共に喜び合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意思の確認は日々の生活の中で交わす会話から汲み取るようにしている。行きたい所がある場合は家族の協力を得て希望に応じている。本人がやりたくないことは無理強いしない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人と家族、職員を交え話し合いを行っている。この際必要に応じ主治医も加わる場合がある。この介護計画は話し合いの結果を反映したものである。実施に当たっては本人の生活歴を重視し、個々の心身の状況に合わせたケアになるよう心掛けている。		管理者は介護内容を今よりさらに高めるため、チームで介護計画書の見直しを進めている。入居者本位のレベルの高い介護計画書作成に期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直すと共に、状況の変化に応じて本人、家族、医師、担当職員との話し合いを行い介護計画を見直している。計画の変更は全職員が把握出来るようミーティングで徹底している。		

				取り組みを期待したい項目	
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の対象事業所にはなっていないが、4箇所の協力医療機関と密な連携を取り、内科と外科医が毎週往診に来ている。場合により夜間の往診もしてくれる状態で医療面の安心度は極めて高い。事業所は医院への送迎も行っている。		協力医療機関の医師は管理者に強い信頼を置いている。この関係の維持は今後も永く継続するよう期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してから発生した疾病は家族の同意を得て専門医で受診している。入居前から受診していたかかりつけ医に通院する場合は家族の協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、日頃から本人、家族、医師、職員と話し合っている。話し合いの記録も残している。昨年11月に利用者として職員、医師に見守られながら亡くなった方が居て、安らかに眠った過程を利用者全員が体験出来、関係者が学んだ意義は大きい。		今後も利用者・家族の希望があればチームとして十分な話し合いの上で可能と判断出来れば看取りを行う考えである。利用者・家族の思いを更に汲み取りチームとして一つの方向性を持つように期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に対応する場合は通り一遍の敬語ではなく親しみを込めた声かけを心がけ、本人のプライドを傷つけないよう注意している。全員が個室のため入室する際は声を掛けるかノックをするなど配慮をしている。プライバシーに関わる書類は施錠出来る書棚に保管されている。契約書で個人情報利用同意書を交わし遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は個々のペースに合わせて柔軟に対応している。花や菜園の世話、活花など趣味の活動も利用者の希望に沿って支援している。身だしなみやおしゃれにも気配りし、本人の好みを大切にしている。美容・理容は近くの店を利用している。欲しいものを買いたい場合は職員が同伴し支払をしている。		利用者は金銭管理をしていないが、個人の能力で自己管理が可能な方は、自立支援につながるので、徐々に任せるよう今後の取り組みに期待したい。

				取り組みを期待したい項目	
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立調理は外部委託なので献立や料理に参加することは無い。しかし月に2～3回バーベキューや鍋物などを作り、全員で味わっている。日常の食事は職員も同じものを一緒に頂き、馴染みの食器で食事を楽んでいる。準備や片付けは可能な方のみで行なっている。誕生日などはケーキを作り、皆で祝っている。		食事前に行う嚥下体操は時間をかけて行っていたが、効果があるので、今後も内容を拡大し継続することを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、強制せず希望によりタイミングを計って入浴出来るようにしている。着物を汚した場合は直ぐに入浴し、清潔にしてから着替えるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花や野菜、商店街に置かせてもらっているプランターの水撒きは散歩を兼ねた気晴らしになっている。部屋の掃除、活花など得意分野で役割を担当している。毎日リクリエーションの時間(歌、ゲーム)を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所は商店街に隣接しているため、便利な反面交通量が多く、道路には歩道が無いので危険であり、車椅子を動かす支援者がいないと外出できない。事業所の行事として外出する機会を設け、実施している。家族と一緒にの外出や外泊は行われている。		入居者18名の内車椅子を利用しないと動けない方が8名いるため、外出するには支援者が必要である。そこで積極的に家族の支援やボランティアの受け入れをするなどして、外出する機会を更に増やすよう検討を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は掛けている。鍵を掛ける弊害は理解しているが、徘徊する利用者が数名、また物売りや勧誘も後を絶たず不審者の侵入も危惧されるのでやむを得ず家族の了解を得た上で施錠している。そのため地域の方が気軽に立ち寄ってもらうのは難しい。		徘徊する入居者が数名居るため困難な課題であるが、鍵を掛けずに済むよう、更なる工夫と努力に期待する。地域の方が気軽に立ち寄ってもらうため、センサーによる玄関の開閉を確認するなどの方法を検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内にも火災報知機、消火器、煙・熱警報器は設置しており、その使い方については職員全員が習得している。マニュアルもあり火災や地震、水害など災害時の避難訓練は年二回実施している。草津西消防署の指導の下行われ、非常口に簡易スロープを備えるなどの提案があった。		消防署立会いの避難訓練は継続して実施して欲しい。全員が非難する時間や課題などを検討し、スムーズな避難が出来るよう定期的な訓練を重ねるよう期待する。

					取り組みを期待したい項目
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価は委託先の栄養士が作っているため、全部摂取すれば問題ないが、摂取量が変わった場合、お粥にしたりきざみにするなどして対応している。場合によっては主治医と相談の上食事の内容を変えている。食事量と水分摂取量は健康チェック表を作り個別に記録し管理している。常時お茶などが飲めるようポットや茶器の設備はある。		全利用者の水分摂取量(汁物も含め)を個別に健康チェック表で把握できるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は適切な広さがあり、空調、換気、遮光、防音などの設備は整っている。廊下や階段など要所には手摺が取り付けられている。玄関や居間には利用者がいけた花があり、季節感を味わえる。この事業所の特徴として全館24時間換気が出来、常に新鮮な空気を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室の広さは6畳弱で、馴染みの家具が置かれている。室内は整理整頓されよく清掃はされていた。シーツや寝巻きなどは洗濯され清潔であった。この部屋で家族が泊まれるようにもなっている。温度調整は利用者の希望に合わせて職員が行ない、快適な室温に保たれている。居室の鍵も掛けられるが施錠の判断は利用者の自由である。		